

年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	骨関節系解剖生理学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部1年		学期及び曜時限	前期 金6・7限	教室名	903
担 当 教 員	藤井 隆太	実務経験と その関連資格	理学療法士			
《授業科目における学習内容》						
運動器系を構成する骨格、関節と靭帯、筋系を講義と実技を通して学ぶ。骨総論では骨の形態・構造・機能・発生等を述べる事ができる。各論では身体の骨を同定する事ができ、各部位を体表から触察できる。関節と靭帯では、関節の構造を述べる事ができ、骨がどのような繋がりをもって関節となっているのかを関連づけることができる。筋系では、骨格筋の構造と作用を理解できる。各筋の起始・停止・作用を覚えた上で、各筋群がどのように関節を動かしているのか関連づける。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験60% 小テスト20% レポート20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学:シリーズ監修 奈良 勲・鎌倉矩子 編集 野村 巖 医学書院 プロメテウス解剖学:坂井建雄 医学書院						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
解剖学は覚える内容が大変多くあります。定期テスト前の勉強だけではとても間に合いません。そのため、小テストを随時行います。大変だと思いますが、まずは小テストを通じて復習する習慣をつけてください。復習で学んだ実際に実技で確認していきます。理学療法士になる最初のステップとして、一緒に乗り越えていきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標			上記教科書		
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション(授業の進め方や内容の説明等)				
第2回	授業を通じての到達目標	骨の形態、構造、血管と神経を理解する		上記教科書		
	各コマにおける授業予定	骨学総論1(骨の形態、構造、血管と神経)				
第3回	授業を通じての到達目標	骨の機能、発生、リモデリングを理解する		上記教科書		
	各コマにおける授業予定	骨学総論2(骨の機能、発生、リモデリング)				
第4回	授業を通じての到達目標	下肢帯、骨盤の構造的特徴を理解する		上記教科書		
	各コマにおける授業予定	下肢帯、骨盤の構造的特徴				
第5回	授業を通じての到達目標	大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨の構造的特徴を理解する		上記教科書		
	各コマにおける授業予定	大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨の構造的特徴				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	下肢帯、骨盤を確認できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	下肢帯、骨盤を実技で確認		
第7回	授業を通じての到達目標	大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨を確認できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨を実技で確認		
第8回	授業を通じての到達目標	骨の連結、一般構造を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	関節靭帯総論1(骨の連結、一般構造)		
第9回	授業を通じての到達目標	関節の分類、関節の機能を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	関節靭帯総論2(関節の分類、関節の機能)		
第10回	授業を通じての到達目標	運動連鎖と関節の感覚受容器を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	関節靭帯総論3(運動連鎖と関節の感覚受容器)		
第11回	授業を通じての到達目標	下肢帯、股関節の靭帯と連結を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	下肢帯、股関節の靭帯と連結		
第12回	授業を通じての到達目標	膝関節、足関節の靭帯と連結を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	膝関節、足関節の靭帯と連結		
第13回	授業を通じての到達目標	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造		
第14回	授業を通じての到達目標	骨格筋の作用と神経支配(関節の運動の種類と方向)を理解できる	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	骨格筋の作用と神経支配(関節の運動の種類と方向)		
第15回	授業を通じての到達目標	代表筋の起始・停止・作用と触察を経験する	上記教科書	
	各コマにおける授業予定	代表筋の起始・停止・作用と触察①		